

地域健康生活支援学演習Ⅱ

[演習] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》○鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 長谷川純子

【概要】

地域生活を支援する専門職を支援する為に、地域（コミュニティ）をマクロ的視点で俯瞰し、そこから課題抽出、課題解決方法の提案に至る一連の流れを学ぶ。

【学修目標】

地域健康生活支援学特講Ⅱで学んだ内容の理解を踏まえ、地域課題解決のための手法を理解する為に、実際に特定の地域を対象として地区診断から課題の抽出と分析、さらには問題解決のための具体的方策の提示方法について説明できる。

1. 地区診断の方法を説明できる。
2. 地区診断の結果を踏まえ、地域が抱える課題を抽出し分析が出来る。
3. 抽出された課題を踏まえ、その改善方法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～15	地域でのフィールドワーク	オリエンテーション 地域課題及び問題解決のための調査 地域課題及び問題解決のための具体的方法の提示 関係者に対する具体的方法の提示 フィードバック	鈴木英樹 長谷川純子

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

フィールドワークにおけるレポート50%、具体的提示内容（プレゼンテーション）50%で判断する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

公益社団法人日本リハビリテーション医学会監修 リハビリテーションと地域連携・地域包括ケア 診断と治療社 2015年
須田力ほか著 積雪寒冷地における高齢者の生活と運動 北海道大学図書刊行会 1997年
坂倉恵美子編著 積雪寒冷地における高齢者の居場所づくり 株式会社ワールドプランニング 2014年

【学修の準備】

各講義前には配布資料や提示課題を基に討議が活発になるよう意見を整理しておくこと（予習80分）。
講義終了後には、配布資料や討議内容について整理復習を行うこと（復習80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーション科学に関する高度な学識と研究能力を修得し、リハビリテーション科学の発展を通して社会に貢献できるというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

鈴木英樹（専門理学療法士；生活環境支援） 長谷川純子（理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級）

【実務経験を活かした教育内容】

地域実践における実務経験を踏まえ、地域住民が抱える生活課題について積極的に意見交換を行う。